

ふたつのシンポジウム

「ウィリアム・モリスと柳宗悦」

「アーツ・アンド・クラフツ運動と民藝運動」

Two Symposia at Osaka University Graduate School of Letters / 20-21 December 2014

Symposium I (20 December) : William Morris and Yanagi Muneyoshi

Symposium II (21 December) : The Arts and Crafts and the Mingei Movements

「ウィリアム・モリスと柳宗悦」

12月20日(土) 14-17時

パネリスト

川端康雄 (日本女子大学) 「モリスと柳 日々の暮らし」

川島智生 (京都華頂大学) 「柳の住まいとモリスの住まい」

藪 亨 (大阪芸術大学) 「モリスと柳の挿絵論」

横山千晶 (慶應義塾大学) 「モリスと柳の玩具論」

司会: 藤田治彦 (大阪大学)

「アーツ・アンド・クラフツ運動と民藝運動」

12月21日(日) 10-13時

パネリスト

鈴木禎宏 (お茶の水女子大学) 「<対抗産業革命>運動としての二つの運動」

濱田琢司 (南山大学) 「農民美術運動との比較」

橋本順光 (大阪大学) 「ロバートソン・スコットと民藝運動」

吉村典子 (宮城学院女子大学) 「二つの運動にとっての建築」

司会: 中見真理 (清泉女子大学)

2014年 12月20日(土) 21日(日)

大阪大学豊中キャンパス 文法経講義棟4階 文41講義室

申し込み不要 (どなたでも参加できます)

ふたつのシンポジウム

「ウィリアム・モリスと柳宗悦」

「アーツ・アンド・クラフツ運動と民藝運動」

イギリスのアーツ・アンド・クラフツ運動とそれを導いたウィリアム・モリス（1834-1896）、日本の民藝運動とその指導者であった柳宗悦（1889-1961）、これほど興味深い関係にありながら比較されることの少なかった二つの運動と二人の人物は他にないといっても過言ではありません。しかし、日本ではこの十数年の間に両者、両運動の研究者同士の交流も進み、そろそろさまざまな角度から比較されてもいい時期になりました。そこで、平成23-26年度の科研・基盤研究（A）「アーツ・アンド・クラフツと民藝—ウィリアム・モリスと柳宗悦を中心とした比較研究」（研究代表者：藤田治彦）は、同研究の総括の一つとして、このようなかたちでふたつの関連シンポジウムを準備しました。両シンポジウムとも、4名のパネリストの方々から約20分ずつの話題提供の後、20日の午後はモリスと柳をめぐって、21日の午前はこの二つの運動をめぐって、ディスカッションが行われます。



ケルムスコット・ハウス（ロンドン、ハマスミス）



日本民藝館（東京、駒場）

ACCESS

阪急電車宝塚線・石橋駅（急行停車）下車東へ徒歩約15分

大阪モノレール 柴原駅下車 徒歩約10分

